

〔新入社員の声〕

新入社員の声

増子由弥

(全農畜産サービス株式会社西日本原種豚場)

All about SWINE 61, 41

私は2020年4月に全農畜産サービス株式会社に入社し、秋田大仙SPF豚センター(秋田県:母豚1,000頭のGGP・GP農場)における1年間の実地研修を経て、2021年4月より、西日本原種豚場(熊本県:母豚800頭のGGP・GP農場)で勤務しています。大学時代は畜産を専攻しており、実習で養豚場研修をしたことがきっかけで、将来は日本の養豚業を支える仕事に携わりたいと考え、この業界に入りました。

最初に配属となった秋田大仙SPF豚センターでは、種豚部門・分娩部門・販売部門を1ヶ月ごとに移動する形で作業を覚えました。また、実地研修と同時進行で、業務内容の詳細をまとめた作業マニュアルの作成、全農飼中研上士幌種豚育種研究室の見学および人工授精師(豚)の講習会参加等を通じて、農場の業務フローだけでなく、種豚の生産体系や繁殖に関する基礎知識を身につけることができました。

現在の職場である西日本原種豚場ではAIセンターに配属しています。恥ずかしながら、母豚とは異なり、雄豚に対しては「危険」だという恐怖心を抱いていたため、異動前の秋田大仙SPF豚センターでも、雄豚の採精作業が一番苦手な作業で自信が持てない作業でした。しかし、配属されたAI

センターでは、採精が最も重要な作業であるため、腹を括り、研修で学んだことを振り返りながら、ほぼ毎日実践で採精作業に取り組みました。最初は雄豚が少し動くだけで手を離してしまう等、失敗続きでしたが、数をこなしていく内に手の握り方、雄豚が採精を終えるタイミングおよび様々な性格の雄豚への対応方法を自然と理解していくことができ、以前は苦痛だった業務が今では自信が持てる業務となり、若雄豚の調教も率先して行えるようになりました。

AIセンターでは採精の他にも、精子分析装置を用いた精液性状確認、希釈、容器充填および梱包等、様々な作業があります。その中でも、受注漏れや発送時の本数間違いは、即クレーム事案となってしまうので、FAX・電話での受注管理や梱包時の本数確認作業には、特に気を付けて取り組んでいます。

西日本原種豚場での1年目は、まずAIセンターの業務を覚えることに必死でしたが、2年目になると業務にも慣れてきて、AIセンターの全体業務を意識しながら作業する余裕ができてきました。これからは、作業工程を工夫することで、より全体業務を効率化できないか考えながら、日々実践していきたいと思っています。